

2018 年度
事業報告書

自 2018 年 4 月 1 日
至 2019 年 3 月 31 日

公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟

目 次

概 況	1
1. はじめに	1
2. 連盟全体	2
3. 事業別概況	4
I. 競技会事業（公益目的事業 1）	9
1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）	9
2. 競技会運営環境の整備（公益目的事業 1.2）	10
3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）	10
4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）	10
II. 普及事業（公益目的事業 2）	11
1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）	12
2. 講習会等の開催（公益目的事業 2.2）	13
3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）	14
4. 広報（公益目的事業 2.4）	16
5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）	17
III. 国際交流事業（公益目的事業 3）	18
1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1）	18
2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）	18
3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）	19
4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）	19
IV. 収益事業等	20
1. 公認（収益事業等 1）	20
2. 商品販売（収益事業等 2）	20
V. 法人・管理部門	21
1. 会員・会友	21
2. 理事会・会員総会	22
3. 組織運営	23
4. 常設委員会・特別委員会	23

概 況

1. はじめに

2018年度の事業計画は、当連盟の中長期的な課題である次の3点について、継続あるいは強化して取り組んでいくこととした。

課題1：財務的に強固な事業基盤を構築すること

課題2：普及活動をブリッジセンターに定着させること

課題3：プレイヤーの高齢化に対応すること

課題1に関しては、ブリッジフェスティバルを隔年開催にしたことで収支的に安定した。初めて非開催とした2015年度及び開催した翌2016年度との合算で400万円強の黒字となった。2回目の非開催年度である2017年度は276万円の黒字であり、2018年度は60万円の黒字であったことから、2015年度からの4年間では約700万円の黒字となった。

また、2018年度はスポーツ振興基金に対して2018年6月アジアカップの派遣費用に関する助成金の申請を行い、300万円の交付が認められた。スポーツ振興基金の活用は、2017年11月にJCBLがJOC準加盟団体として承認されたことの効果である。2019年度以降も国際交流事業に対し公的支援が受けられることが期待できる状況になっており、国際試合への派遣費用が世界選手権におけるミックスチームの採用などで増加傾向にある中、スポーツ振興基金による助成金の交付は貴重なものとなっている。

課題2に関しては、ブリッジセンターの普及活動はかなり活発化している。2018年度は計画通りほぼすべてのブリッジセンターで体験教室および入門講習会が定期的で開催された。2018年の夏以降はアジア競技大会によるブリッジの知名度の向上が追い風となり参加者が増加した。

2017年度から実施している「優待券進呈キャンペーン」は2年目を迎え、申請件数が昨年度の38人から56人に増加した。新聞広告の効果が伸び悩みを見せているため、口コミを活用した新規プレイヤーの獲得の重要性が増している。

課題3に関しては、2018年度は引き続き若いプレイヤーの獲得に取り組んだ。小学生から高校生を対象にブリッジの体験、入門の場を提供する橋之介くらぶでは、ブリッジを知らない保護者からの申込みが増えた。5大学で展開している大学授業では受講を希望する学生が増え各大学で盛況となった。20代から40代の女性を主な対象とする社交ブリッジ、20代から50代の男性を主な対象とするゲーム愛好家向けブリッジの活動をそれぞれ支援し、新しい参加者の獲得につながった。

また特筆すべきは中学生、高校生のユースプレイヤーの活躍が目立ってきていることである。ヤングスター部門（21歳未満）の日本代表は、かつては大学生で占められていたところを、中学生、高校生が選考会で優秀な成績を収めて代表入りし、中心選手としてチームを牽引するケースが見られるようになった。

大学生を中心とするユースチームでもナショナル、リジョナルでの躍進が注目を集めた。9月に開催された高松宮杯では全5フライトのうち、ユースチームが参加した3フライトの全てで、並み居る強豪を抑えて優勝したのは快挙であった。

高齢のプレイヤーがより参加しやすい環境作りとして、バリアフリーおよびAEDの設置の推進を行った。

以下では、2018 年度事業計画の基本方針に沿って事業活動の概況について述べる。

2. 連盟全体

2018 年度は、連盟全体の課題を①収益増加、②経費削減、③将来への投資の 3 つに集約し、引き続き業務執行体制の強化、事業の効率化とともに公益に資する事業運営に努め、各事業部の事業計画に沿って計画的に事業を実施した。

(1) 収益増加

「本年度の予算編成に関しては、基本的に昨年度の黒字の範囲内での赤字を計上し、2 年度通算での収支均衡予算を目指す。具体的には、昨年度から YehBros 杯開催を除外し、ブリッジフェスティバル関連を追加した 2 億 4 千万円の事業予算で、最終的には 5 百万円程度の赤字を見込む。」

当期経常増減額のうち経常収益については 2 億 3,805 万円を見込んでいたが、実績では 2 億 1,965 万円となり、予算に対して 1,840 万円の不足となった。実際には商品販売事業の内部取引消去額が約 777 万円になり、それを含めても約 1,063 万円の収益減となった。経常費用については当初予算では 2 億 4,260 万円を見込んでいたが、実績では 2 億 1,904 万円（内部取引消去前は 2 億 2,681 万円）になり、約 2,356 万円（内部取引消去前は約 1,579 万円）の改善が見られた。経常収益では主催競技会収益が対予算比 896 万円の減収、公認競技会収益が対予算比 742 万円の減収となった。

競技会参加者数を見てみると、主催競技会、公認競技会ともに前年度をわずかに下回った。経常費用が予算を下回った主な要因は、普及事業費が対予算比 109 万円の減少、国際交流事業が 348 万円の減少、商品販売事業が 308 万円の減少、法人会計が 463 万円の減少であった。最終的に 609,426 円の黒字決算となり、2017 年度との 2 年度通算では 436 万円の黒字となった。

「競技会事業においては、会員・会友の高齢化に伴う参加者数の減少を防ぐ競技会運営を検討し、新規プレイヤーの競技会参加定着を図る。初心者の競技会参加頻度が上がり、多くの MP が獲得できるような競技会運営を目指す。」

2017 年度に一部のナショナル競技会で試合形式の変更を行ったことで一定の成果を挙げたが、2018 年度もその効果が継続した。一部の初心者大会に対して、地方在住の△20 のプレイヤーの招待および参加賞の提供を行い、サロンなどから競技会への移行促進を図った。

2017 年度末の会員・会友数は平成 2016 年度末の 7,753 人から若干減少して 7,636 人であった。2018 年度も入会や紹介のキャンペーンを継続したが、2018 年度末の会員・会友数は若干減少して 7,578 人となった。

2017 年度から知人の紹介の活性化を狙う新たな施策として「優待券進呈キャンペーン」を実施しており入門講習会の受講者増加には一定の効果が見られたが、入門講習会受講開始から入会までには相応の時間が必要である。受講者の 2 年目以降の継続と入会に期待したい。

(2) 経費削減

「本年度は、昨年度実施した事務所賃借スペース削減で管理費が抑制される。人件費に

については事務局職員の世代交代で減少する方向であるが、次代を担う若手職員の新規採用も具体的な検討時期に来ているため、それに合わせてマニュアル化や作業効率化を図り、無駄を省いて作業の確実性を高めていく。」

2017 年度から進めている事務局職員の世代交代、人件費の削減を 2018 年も継続した。2019 年度に予定している職員の新規採用に向けた準備を行った。

2017 年 7 月からの 1 階会議室およびディーリングルームの地下への移設については、賃借料に加えて清掃費、光熱費においても一定の削減効果が見られた。

普及活動の助成については長期的な視野で支援を行っていく一方、効果の薄い普及活動に対しては助成金を削減した。

「普及事業においては、中期計画に基づいて進めた事業の成果に応じ、それぞれの事業の継続、修正または中止を決定した後、本年度新規事業の実施計画とともに、本年度からの中期計画を改めて策定し、それに基づいて効率的な事業展開を進める。」

夜間のブリッジ環境の提供に寄与してきたプレイヤーズサロンは、昼間のサロンへのニーズの移行が見られるため 2018 年度末をもって休止とした。首都圏を中心とする各地のインストラクターが受講してきたインストラクターズセミナーは、2018 年度で 5 年目を迎えた。参加者がのべ約 60 名に達したことから機会の提供は十分に行われたと判断し、2019 年度はリニューアルを予定する。

(3) 将来への投資

「昨年度、会員・会友数は若干減少したが、その中で若い世代は増加した。この傾向が継続するよう、受講生やブリッジクラブの学生、生徒にとって魅力ある連盟を目指し、センター・クラブのスタッフ、事務局職員のブリッジ愛好者への対応の向上を図る。」

若い世代へのアプローチとしては、土日や平日夜に開催する若い人向けの普及活動を支援し、新規に始める若い人、大学授業受講者、多少遠ざかっている大学ブリッジクラブ卒業生などの層の確保を行った。それらの活動の効果が高まるよう、センター・クラブのスタッフの協力を仰ぎながら、事務局職員による積極的なサポートを行った。

「学生、生徒が卒業後も日常的にブリッジが続けられる環境として、若い世代が気楽に出場できる学生リーグ主催競技会の活性化を図る。そのため、あまり競技会に出られない OB も積極的に参加して一緒に活動していけるような学生リーグ運営を支援する。」

2018 年度も学生リーグ主催競技会の開催をサポートした。現役学生はもちろん OB が大勢参加することで盛り上がりを見せ、学生と OB の交流に寄与するとともに学生リーグの財政基盤の確保に役立った。

「そのほか、新たな形態のブリッジサロンや社交イベントを拡大し、初級プレイヤーにも対象を拡げたさまざまな魅力あふれるプレイ環境を構築していく。」

初心者の競技会への誘導を目的とした△5 のプレイヤー向け競技会サロン対抗戦を 2017 年度に開始し、2018 年も引き続き開催した。講習会を受講中、および講習会を卒業しサロンで楽しんでいるプレイヤーが主に参加し、講習会やサロンの先生がチームのサポートを行った。13 チームが参加した。

3. 事業別概況

(1) 競技会事業（公益目的事業 1）

【競技運営】

「主催競技会の運営においては、世界各国からも高い評価を受けている大会運営ノウハウを生かして質の高い競技会の提供に努めるとともに、担当ディレクターや参加者からの意見やニーズを収集して問題点や課題の把握に努め、迅速に対応していく。」

2018 年度は予定していた連盟主催ナショナル 10 競技会、同リジョナル 5 競技会を全て滞りなく開催した。

【ブリッジフェスティバル】

「2015 年以降ブリッジフェスティバルを隔年開催とした。今年度は 2019 年 2 月に開催する。」

2019 年 2 月に第 22 回横浜ブリッジフェスティバルを開催した。海外チーム 35 チームを含む 53 チームが参加した。併せて、横浜スイスチーム、横浜オープンペア、IMP ペアを開催した。

【競技会の向上】

「中長期的な課題として、引き続きよりよい競技機会を広く提供するために競技会の内容の見直しと競技会参加者に対するサービス向上を図る。」

競技会用ボードを追加購入し、ボード組込が必要な主催競技会の全てを組込ボードで運営した。藤山杯の競技会形式の予選・決勝から 2 日制への変更を 2018 年度も継続した。

【JTOS】

「競技会運営管理システムの整備・改善に努める。競技会運営ソフト（JTOS）についてはこれまで JTOS 保守グループを組織して保守および新機能の導入を行ってきたが、今後は競技会事業部が継続して保守にあたることとし、使用者のニーズに合わせた新バージョンを随時リリースする。スコア入力システム（ブリッジメイト）の貸与及び導入支援を継続する。」

2017 年 2 月にリリースした JTOS Ver 3.4 の修正・機能追加をアップデートした。

ブリッジメイトのファームウェアのアップデートを導入クラブに通知し、アップデートを依頼した。

地方リジョナルへのブリッジメイトの無料貸し出しを実施し、その他の希望クラブには有償で貸し出した。

【ディレクター育成】

「ディレクター講習会を継続し、競技会運営のレベルアップを図る。本年度は隔年に実施しているナショナルディレクター養成プログラムを実施しない。」

クラブディレクター講習会を 2019 年 3 月に開催した。

ナショナルディレクター養成プログラムは隔年から 3 年に 1 度に改めた。次回の実施は 2020 年度を予定する。

【ブリッジの規則改正】

「デュプリケートブリッジの規則が 10 年ぶりに改正され、日本では 2018 年 3 月 31 日から施行された。施行前にブリッジセンターなどで講習会を開催した。会報に改正点の解説を掲載した。施行後の問い合わせなどに対応していく。」

2018 年 3 月 31 日に施行された新規則移行のスムーズな定着に努めた。各センター・クラブなどからの問い合わせに対応し、新規則の適切な運用をサポートした。

(2) 普及事業（公益目的事業 2）

【広報活動】

「2018 年アジア競技大会の公式種目に採用されたことをアピールし、ブリッジの知名度向上と新規プレイヤーの呼び込みに取り組む。2017 年度に検討したブリッジ紹介動画の制作を進め、YouTube などに公開していく。」

アジア競技大会のブリッジ競技に関して、取材かつ放映のあったテレビ、ラジオなどの番組の数は 16 に達した。大会期間中は連日テレビで取り上げられ、知名度の向上につながった。ブリッジ紹介動画は撮影を終え、編集作業に移行した。

【子どもおよびユース】

「小学生から高校生を対象とした橋之介くらぶでは、四谷・横浜・大船の 3 会場でブリッジを体験し基礎を学ぶ機会を提供する。ユース支援は高校生から大学生をターゲットとし、講習会や合宿の開催や補助、競技会への誘導、クラブ活動の支援を行う。」

橋之介くらぶは 3 会場で年間を通して開催した。ユース支援は高校生及び大学生を対象とした講習会の開催、合宿の支援を行った。

【大学でのブリッジ授業の開講】

「大学でブリッジ授業を開講し、ブリッジの宣伝と社会的認知度の向上を図る。大学生にブリッジを体験する機会を提供し、ブリッジに理解のある若い世代を確保する。東京大学・早稲田大学・青山学院大学・明治大学・大阪大学でそれぞれ実施する。」

第 18 回アジア競技大会による知名度向上の効果、授業の認知度の上昇により、各大学で履修希望者が増え活況を呈した。

【若い成人向けの普及活動】

「2017 年度にスタートした 20 代～30 代が中心の普及活動社交型ブリッジおよびゲーム愛好家向けブリッジを支援し、プレイヤーの確保と若い層へのアピールを行う。」

社交型ブリッジ「Light Bridge」は第 4～9 期までの合計 11 回、ゲーム愛好家向けブリッジ「Table Cruise」は第 13 回から第 26 回までの合計 14 回開催された。Table Cruise のメンバーは毎月競技会に参加し、神奈川県知事杯ではフライト C 優勝の成績を収めた。

【普及用コンテンツ】

「システムやテキストを選ばない汎用性のある入門用の練習ハンドとその解説を用意し、ブリッジの普及の現場に選択肢として提供していく。」

JCBL 公認コンベンションリスト List-A に準拠した普及用スタンダードのコンベンションカードを 2019 年 1 月に公表した。練習ハンドについては一部作成を行った。

【入門教室】

「各センター・クラブと連携し、体験教室や入門コースの参加者の増加を図る。2017 年度上期に一定の成果があった優待券進呈キャンペーンを 2018 年度も継続する。」

優待券進呈キャンペーンの 2018 年度の利用者の人数は前年度比で約 50%増加した。口コミによる新規プレイヤーの獲得に力を入れた。

【京阪神の普及活動】

「大阪、名古屋における普及活動はカルチャースクールと連携して一般層の取り込みに力を入れる一方で、若い層は競技会に積極的に誘致してレベルアップにつなげる。」

名古屋、京都、大阪における活動はカルチャースクールの重要性が高く、各スクールと連携して新規プレイヤーの育成を行った。若い層の競技会の誘導については、柳谷杯関西代表選抜試合において学生 3 チーム及び OB が多数参加した。

【その他各地域の普及活動】

「福岡、札幌、仙台及びその他の全国各地の普及活動は、広告宣伝への協力や体験教室の開催の支援を行う。地元と連携し、コンテンツの提供及び指導ノウハウの共有などの幅広い支援を行う。」

福岡、仙台の広告宣伝への協力を実施し、体験教室の参加者の確保に努めた。広島の入門教室への助成による支援活動、札幌の初心者大会への参加賞の提供を行った。

【体験イベント】

「ブリッジを知らない人にカードを持って体験してもらう場を開催し、ブリッジの宣伝と新規プレイヤーの獲得を行う。国民文化祭、ねんりんピック、ゲームマーケット東京・関西、及び霞が関子ども見学デーなどに出展する。」

イベントへの体験ブースの出展は予定通り実施した。国民文化祭大分は競技会、体験コーナーを同時並行させる形で出展し、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、東京都、静岡県各プレイヤーが参加し親交を深めた。

【体験教室や講習会等の支援】

「センター・クラブ・カルチャースクール・クルーズなどで実施する体験教室や講習会等を支援する。経費負担への助成支援や体験教室に使用する道具類の提供を行う。」

全国のセンター・クラブ・カルチャースクールなどで実施する体験教室、講習会を支援し、年間の支援件数、金額はほぼ前年並みとなった。

【初心者の競技会参加の支援】

「初心者に競技の楽しさを感じてもらおうよう、賞品を充実させ初心者競技会への参加を支援する。地方参加者の無償招待をすることで、地方の競技参加層を拡大させる。」

2018 年度は全国各地の△20 のプレイヤーから、首都圏の初心者大会への参加希望があった。特定の初心者大会を対象に参加賞の提供を継続した。

(3) 国際交流事業（公益目的事業 3）

【第 18 回アジア競技大会】

「2018 年 8 月 18 日から 9 月 2 日にかけてジャカルタ（インドネシア）で開催される第 18 回アジア競技大会にブリッジが採用された。この大会にメン、ウィメン、ミクスト、

スーパーミクストチームを派遣する。昨年 11 月、アジア競技大会の種目採用に伴い JOC に準加盟団体として認定された。今大会でのメダル獲得を目標とする。」

アジア競技大会には選手人数枠の関係で、メン 6 人、ミックス 6 人の 2 チームを派遣した。ミックスのチーム戦は 1 日目に首位に立ちその後も順調に推移していたが、最終日に急失速してメダルを逃したのが惜しまれた。

【第 3 回アジアカップ】

「本年行われるアジアカップは当初バングラデシュで開催予定であったが、2018 年 6 月にゴア（インド）での開催に変更になった。オープン、ウィメン、ミクスト、スーパーミクスト、シニア各 2 チームを募集し、代表チームを派遣する。また大会に併せて開催される APBF 代表者会議に役員を派遣する。」

第 3 回アジアカップは 6 月にゴア（インド）で開催され、オープン、ウィメン、スーパーミクスト、シニアの各 1 チームを派遣した。

【世界選手権】

「2018 年 9 月 21 日から 10 月 6 日にかけてオーランド（アメリカ）でワールドブリッジシリーズが開催されるが、代表チームの派遣は行わない。各種目の決勝進出者に対して参加費の助成を行う。」

ワールドブリッジシリーズは国別対抗戦ではないため代表チームは派遣せず、決勝ラウンドに進出したチーム、ペアに対して参加料の助成を行った。

【世界ユースチーム選手権】

「2017 年の第 51 回 APBF 選手権でヤングスターチームが世界選手権への出場権を獲得したため、2018 年 8 月 8 日から 18 日にかけて蘇州市（中国）で開催される第 17 回世界ユースチーム選手権にヤングスターチームを派遣する。また、2018 年 10 月に徐州市（中国）で開催される世界大学選手権に 2 チーム派遣する。」

第 17 回世界ユースチーム選手権にヤングスターチームを派遣した。世界大学生選手権にジュニア、ヤングスターの各 1 チームを派遣した。

【東京オリンピック】

「2020 年東京オリンピック・パラリンピックにあわせて日本でのマインドスポーツの世界大会開催を目標に関係団体と協議を行い、実現に向けて活動を進めてゆく。」

2018 年度は、関係団体との実現に向けた協議は進まなかった。

(4) 収益事業

① 公認事業（収益事業 1）

「公認事業関連業務は公認ブリッジクラブ及びブリッジセンターと連携し、より円滑かつ適正な事業運営となるようシステム化、効率化を進めていく。」

2016 年度行った CCG 公認料、非会員の主催競技会での参加料、および非会員のセクショナル以上の公認競技会での公認料の 3 つの改訂について、定着している状況を確認した。

② 商品販売事業（収益事業 2）

「在庫管理や販売方法など関連業務の見直し及び効率化を図る。」

在庫管理やウェブからの商品発注に対する回答などの自動化について検討を行った。

(5) 管理部門

「2017 年度に続いて本年度も新入会無料キャンペーンを継続する。2014 年度から 2016 の無料キャンペーン利用者は無料期間終了後も高い継続率を維持しているため、新入会者の確保を最優先としそのための施策を実施する。」

2014 年度から 2016 年度の無料キャンペーンの利用者は、無料期間終了後も 80% 弱が会友として継続している。十分な継続率であると考えられ、新入会キャンペーンを今後も継続する。

「新規プレイヤーにとってもより魅力のある連盟を目指し、事務局員のブリッジ愛好者への対応の向上を図る。事務局業務の改善と職員の世代交代の促進に取り組み、マニュアル化を推進する。」

事務局員の世代交代に向け、業務の効率化を推進するとともに具体的な業務の引継ぎを開始した。

「内部統制力の向上のため、連盟内システムの改善に取り組む。」

業務達成評価シートを活用し、面談によってそれぞれ課題を明確にして取り組むよう指導した。事務局会議を 2 週間に 1 度開催し、各自の業務予定の発表とともに事務局全体への周知、上司からの指示を伝えた。

「進展する高齢化社会に対応し、弾力性のある事業基盤の構築をめざす。」

バリアフリー及び AED の設置に関する助成を継続した。競技会においてステーションナリーの活用を行った。

I. 競技会事業（公益目的事業 1）

1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）

① 主催競技会

- 2018 年度は以下の競技会を主催した。

競技会名	日程	開催日数	場所	参加卓数	前年度
1) ナショナル競技会（全国大会）					
玉川高島屋 S・C 杯	4 月 14、15 日	2 日	玉川高島屋 S・C	57 卓	67 卓
全日本地域対抗選手権（関東予選）	5 月 12、13、19、20 日	4 日	四谷 BC	26 卓	31 卓
藤山杯	7 月 7、8 日	2 日	四谷 BC	39 卓	42 卓
外務大臣杯（予選・決勝）	8 月 18、19 日	2 日	四谷 BC	18 卓	20 卓
高松宮記念杯	9 月 15、16、17、22 日	4 日	四谷 BC/ 五反田 BS	80 卓	79 卓
高松宮妃記念杯（予選・決勝）	11 月 3、4 日	2 日	四谷 BC	33.5 卓	37 卓
全日本女子ペア選手権（予選・決勝）	10 月 13、14 日	2 日	四谷 BC	35 卓	38.5 卓
NISSAN ブルーリボン杯	12 月 24 日	1 日	四谷 BC/名古屋 BC/ 大阪 BC	81 卓	82.5 卓
エンゼル・レッドリボン杯	12 月 24 日	1 日	高田馬場 BC/ 大阪 BC	29.5 卓	39 卓
朝日新聞社杯	1 月 12～14 日	3 日	四谷 BC/五反田 BS/ 高田馬場 BC/渋谷 BC	127 卓	136 卓
2) 日本リーグ					
1 部	前期：4・7 月	4 日	四谷 BC	16 卓	16 卓
2 部	後期：12・1 月	4 日		24 卓	24 卓
3) リジョナル競技会					
柳谷杯	4 月 1、2 日	2 日	四谷 BC/ 高田馬場 BC	87 卓	105 卓
サントリー杯	4 月 28 日	1 日	四谷 BC/ 名古屋 BC/大阪 BC	76.5 卓	83 卓
井上杯（予選・決勝）	5 月 26、27 日	2 日	四谷 BC	21 卓	17 卓
井上歌子杯	5 月 27 日	1 日	四谷 BC	30.5 卓	29.5 卓
渡辺杯	3 月 24、25 日	2 日	四谷 BC	39 卓	39 卓
4) 社会人リーグ					
社会人 IMP リーグ	11 月～3 月		各会場	12 卓	12 卓

- 2018 年度も前年度優勝者を招待した。地方予選通過・地方クラブ推薦による参加者に対しては交通費・宿泊費の助成を実施するとともに、前日宿泊の宿泊費を助成した。

内訳：交通費補助・前泊補助の対象はチーム戦 5 競技会 24 チームと、ペア戦 3 競技会 40 ペア、補助総額は 360 万円。

- ナショナル競技会は参加者数が全般的に例年より減少している。

② 横浜ブリッジフェスティバル

- 2018 年度は隔年開催である横浜ブリッジフェスティバルの開催年度にあたり、2019 年 2 月 19～24 日に開催した。ヨコハマカップに 52 チーム、横浜 IMP ペアに 69 ペア、横浜スイスチームに 53 チーム、横浜オープンペアに 108 ペアが参加した。

2. 競技会運営環境の整備（公益目的事業 1.2）

2018年度は以下の事業を実施した。

① 競技会運営管理システム

- 競技会集計ソフト（JTOS）の保守・管理を行い随時バージョンアップしたβ版を提供した。ブリッジメイトを使用するセンター/クラブに対してはアップデート情報を提供した。不具合の発生したブリッジメイト端末を各クラブから預かりメーカーに送付して修理した。

② 競技会運営環境の整備と維持

- 主要競技会の予想参加者数に応じて、複数の会場（主に首都圏ブリッジセンター）に会場提供を依頼し、参加者数に対して余裕のある会場スペースの準備・確保に努めた。

③ 競技委員会

- 寺本直志理事を委員長としてとして以下の12名が委員として活動した。

委員：ロバート・ゲラー、浅越ことみ、齋藤千鶴乃、桜井雅子、山後秀幸、佐々部君敏、西田奈津子、正村祐一、林伸之、横井大樹、吉田正、仲村篤志

- 定例委員会を6回開催した。

④ ルール委員会

- 2017年版ブリッジの規則を2018年3月31日より実施した。新規則の正誤表をWebで公開した。

3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）

2018年度は以下の事業を実施した。

① ディレクター講習会

2019年3月10日（日）に四谷ブリッジセンターでクラブディレクター養成講習会を開催し、新規受講者7名を含む16名が受講した。

② ナショナルディレクター養成プログラム

2018年度はナショナルディレクター養成プログラムの非実施年度であった。

③ ディレクター承認

競技委員会においてクラブディレクター30名、セクショナルディレクター5名を承認した。

4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）

- 競技会事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出した。

II. 普及事業（公益目的事業 2）

本事業は、ブリッジのことをよく知らない人々の興味・関心を高め、また、あらゆる年齢層のブリッジに対する理解及び技量の向上を促すことにより、マインドスポーツとして文化・スポーツの両方の側面を有するブリッジの普及を図る。具体的には、(1) 体験イベントの開催、(2) 講習会等の開催、(3) 他の団体等による体験イベント・講習会等の実施支援、(4) ブリッジ普及のための広報及びツールの作成・配布の4事業を行う。

2018年度は以下の方針に基づき、2か月に1回開催した普及事業部会議で検討を行いながら各事業の円滑な実施に努めた。

「2018年度は若年層の普及広報活動に力を入れ、2017年度に見られた若い世代への広がりをより確かなものとして定着させる。2018年アジア競技大会で初めて正式種目に採用されたこともあり、メディアを活用しながら認知度の向上に成果をあげる。若いプレイヤーの獲得を目指し、体験イベントを数多く出展する。橋之介くらの開催、機内誌のパズル掲載、大学授業、ユース支援などの従来からの活動を継続するほか、若い成人向けの社交型ブリッジやゲーム愛好家向けブリッジを支援する。」

小学生を中心としたブリッジ体験、入門の場を提供する橋之介くらぶでは、ブリッジを知らない保護者からの参加申込みが増え活発化した。アジア競技大会については、大会期間中はテレビ、新聞などの各種メディアに連日取り上げられ、知名度の向上につながった。SKYMARK機内誌へのブリッジクイズの掲載は、機内誌がリニューアルされる関係で2018年4月号を最後に休止とした。大学授業、ユース支援は予定通り実施した。社交型ブリッジ、ゲーム愛好家向けブリッジの活動を支援し、どちらも毎月イベントが開催された。

「体験教室の参加者や入門講習会へ移行する割合を増やす活動に引き続き取り組む。体験教室や入門講習会の告知広告を継続する。体験イベントを開催することにより近隣のセンター・クラブに紹介していく事例を増やす。優待券進呈キャンペーンを継続し口コミによる紹介を活性化させる。普及事業部全体としては前年並みのコストで展開する。中心的な継続事業である体験教室や入門講習会の実施支援、初心者競技会の支援は、前年並みの規模で実施し細かい改善を行う。ブリッジを紹介する動画の制作やコンテンツの整備に取り組む。」

体験教室、入門講習会の告知広告は、首都圏では2018年8~9月にかけて2紙に、2019年2月~3月にかけて4紙に掲載した。仙台では2018年5月に、福岡では2018年9月および2019年3月にそれぞれ1紙に掲載した。体験イベントの開催は、ねんりんピック、国民文化祭、サンケイリビング社のイベント、ゲームマーケットへの出展を行った。優待券進呈キャンペーンの利用者は昨年度の38名から56名に増加した。ブリッジ紹介動画の作成は2018年4月から12月まで合計5回の撮影を行い、2019年1月から編集作業へ移行した。

1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）

ブリッジをよく知らない人々を対象に、気軽に参加でき、ブリッジに対する興味・関心を高めてもらうための各種体験イベント関連事業を以下のように実施した。

① 文化・教育関連イベント出展

事業名	主催団体	実施場所	実施時期	日数	受益対象者の範囲	参加人数(延べ)
国民文化祭	文化庁	大分県	11月17~18日	2日	一般	100名
ねんりんピック	厚生労働省	富山県	11月3~5日	3日	一般	100名
霞が関子ども見学デー	文部科学省	文部科学省	8月1日	1日	小学生及びその保護者	200名
第12回関西ジュニア・ペア碁大会	日本ペア碁協会	大阪サンライズビル	10月7日	1日	小中学生及びその保護者	40名

2018年度は横浜ブリッジフェスティバルの実施にあわせて2月23日および24日にパシフィコ横浜において普及イベントを開催し、体験教室に70名、実戦教室に11名が参加した。

国民文化祭及びねんりんピックでは、地元のプレイヤーの協力のもと体験イベントを開催し、ブリッジの普及宣伝と地元クラブへの誘導を図った。

小学生及びその保護者を対象とした霞が関子ども見学デー、小中学生及びその保護者を対象とした関西ジュニア・ペア碁大会への出展では、体験者が増え好評を博した。

② 他団体主催イベント

ゲームマーケット東京（2018年5月5日～6日開催、来場者158名。2018年11月24日～25日開催、来場者144名）、ゲームマーケット関西（2019年3月10日開催、来場者62名）にそれぞれ出展し、ブリッジを体験する機会の提供及びゲーム愛好家向けのイベントの紹介を行った。

サンケイリビング社主催イベント「アート&ライフマーケット吉祥寺」（2018年11月12日開催、来場者20名）、「アート&ライフマーケット横浜」（2018年11月28日開催、来場者100名）に出展し、おもに40代～50代の女性に向けた体験教室を開催した。

③ 子ども向け体験イベント

• 橋之介くらぶ体験イベント

2017年9月より開始した大船BC、四谷BC及び横浜BCの3会場で橋之介くらぶイベントを開催した。小学生から高校生及びその保護者にミニブリッジを体験、練習できる機会を継続的に提供し、ブリッジの認知度・イメージの向上を図るとともに将来のブリッジ界を担う若いプレイヤーの育成に取り組んだ。

年間開催実績

事業名	実施場所別回数			実施時期	参加人数(合計)
	四谷BC	横浜BC	大船BC		
体験／入門／練習会					
体験教室	13	6	8	通年	27名
橋之介道場	28	0	27	通年	55名
大会					
お楽しみ大会	0	1	0	12月	20名

- 橋之介くらぶ運営

2018 年度の橋之介くらぶへの新規入会者数は 18 名（2017 年度 16 名）、年度末時点での会員数は 128 名（同 156 名）、各種イベントへの延べ参加者数は 102 名（同 58 名 ※ジュニアのみ）であった。

子ども向け広報活動として季刊誌『橋之介くらぶ通信』の編集・発行（6 月、9 月、12 月、3 月）を行った。このほか、会報橋之介くらぶコーナー・ウェブサイトの子ども向けページの記事の編集・作成・掲出、チラシ・ポスター制作・配付、登録者向けのイベント情報のメール配信などの広報活動を行った。

2. 講習会等の開催（公益目的事業 2.2）

ブリッジに親しみ、理解を深め、技量を向上させるための講習会等を開催する事業を「講習会等の開催」としてまとめ、以下の事業を実施した。

① インストラクター講習会

公認資格制度の前段として、ブリッジに限定しない一般的な講師力や対話力等の一般的な指導スキルを習得するためのインストラクター講習会を 2019 年 3 月 31 日に開催し、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、長野から 13 名が参加した。

② ユース向け講習会

意欲あるユースプレイヤーの育成を目的とする「ユース育成プロジェクト」の一環として、強化プログラムによる技術向上支援を行った（「ユース育成プロジェクト」の国際大会派遣事業は公益目的事業 3.2）。

A) 育成プロジェクト（公益目的事業 2.2）

2018 年度の代表選手及び 2019 年度代表候補登録者を対象に、練習会、講習会、国内競技会参加（反省会形式の講習会を含む）、代表選考試合等で構成される育成プロジェクトを実施した。参加者には、プロジェクト指定の 4 競技会（柳谷杯、横浜 INV、高松宮記念杯、朝日新聞社杯）と特別講習会への参加費を助成した。遠方からの参加者には、交通費・宿泊費の助成も行うとともに、各講習会には講師を派遣した。

ユース育成プロジェクトの 2018 年度の登録者数は 73 名（前年比 13 名増）だった。

B) 国際大会への派遣（公益目的事業 3.2）

2018 年度は以下の国際大会への代表選手派遣または参加支援を実施した。

- 第 17 回世界ユースチーム選手権

会 期： 2018 年 8 月 8 日～8 月 18 日

開催地： 中国（蘇州市）

内 容： 21 歳未満のジュニアチーム計 6 名を派遣し、航空運賃、宿泊費、参加料、海外保険料、ユニフォーム代を助成した。

- 世界大学生選手権

会 期： 2018 年 10 月 25 日～10 月 28 日

開催地： 中国（徐州市）

内 容： 26 歳未満のジュニアチーム 6 名を派遣し、航空運賃、宿泊費、参加料、海外保険料、ユニフォーム代を助成した。

③ プレイヤーズサロンの拡充

遊びながら上達することを目指すプレイヤーズサロンは、口コミや人の繋がりを活用して参加者の拡大を図った。

④ 入門講習会のカリキュラム制作

JCBL 公認コンベンションリスト List-A に準拠した普及用スタンダードシステムのコンベンションカードを作成し 2019 年 1 月に公表した。

3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）

体験教室や講習会等を開催する会員・会友や他の団体に対して、人的支援、金銭的支援、用具や教材の提供およびノウハウの支援を行った。

① 一般支援

体験教室・入門講習会を開催して愛好者を増やしたいという会員・会友の自己負担を軽減する支援を継続し、開催場所・回数増を図った。また、カルチャースクール講座では通常支払われないアシスタント料を助成することにより、良質なブリッジ講座の開催を支援した。

- ブリッジセンター、クラブ及び個人が開催する体験教室の助成

13 都道府県の教育現場や文化祭、地域イベント、国際交流イベント、老人福祉センター、同窓会、公民館、ブリッジクラブ、海外クラブ、クルーズで、会員・会友が開催した体験教室の講師／アシスタント料、会場費、交通費を助成した。

地域別実施状況内訳

地域	参加者数	件数	助成額
北海道	65 名	7 件	¥80,100
宮城	4 名	2 件	¥20,000
栃木	186 名	16 件	¥186,000
群馬	42 名	8 件	¥70,920
茨城	25 名	1 件	¥24,000
埼玉	19 名	4 件	¥25,040
東京	516 名	55 件	¥543,324
千葉	27 名	14 件	¥102,680
神奈川	210 名	23 件	¥284,604
山梨	2 名	1 件	¥6,000
静岡	16 名	4 件	¥33,000
大阪	97 名	7 件	¥106,720
福岡	48 名	5 件	¥57,120
海外	5 名	1 件	¥16,000
クルーズ	80 名	1 件	¥9,000
合計	1,342 名	149 件	¥1,564,508

- ブリッジセンター、クラブ及び個人が開催する入門教室の助成

6 都道府県及びジャカルタ、シンガポールで会員・会友が開催した入門講習会の講師料、会場費、交通費、及びクルーズのアシスタント料を助成した。

地域別実施状況内訳

地域	参加者数	件数	助成額
北海道	41 名	7 件	¥629,000
東京	83 名	15 件	¥780,280
千葉	12 名	2 件	¥212,440
神奈川	92 名	14 件	¥1,415,676
福岡	3 名	1 件	¥66,900

海外	19名	3件	¥72,660
クルーズ	143名	2件	¥384,000
合計	407名	46件	¥3,648,156

- カルチャー講座助成

9都道府県で開講されているカルチャースクール講座58件について、アシスタント料、講師・アシスタント交通費および講師料（規定金額に満たない場合のみ）の助成を行った。

地域別実施状況内訳（アシスタント交通費助成を含む）

地域	参加者数	件数	助成額
北海道	10名	1件	¥22,000
京都	5名	4件	¥44,280
東京	262名	24件	¥872,432
埼玉	38名	6件	¥136,780
千葉	37名	9件	¥338,355
神奈川	9名	1件	¥22,680
長野	22名	4件	¥161,800
愛知	75名	9件	¥406,330
大阪	25名	3件	¥336,564
合計	483名	58件	¥2,341,211

- 地方活性化活動（地方クラブ支援）

全国のブリッジクラブによる普及活動を奨励し、イベント企画・体験教室スタッフ派遣・賞品提供など必要な支援を行った。

長崎チェス&ブリッジクラブ主催「第11回長崎居留地まつりブリッジ大会新人戦」に優勝グラスおよびAPBF2012福岡記念カードセットを寄贈した。（9月）

② 教育現場におけるブリッジ講座支援

- 東京大学ブリッジ講座（13年目）

講座概要： 前期・後期 各14回、2単位

実施場所： 東京大学駒場キャンパス

講師： 浅井潔

支援内容： 講師及びアシスタント2名の派遣、四谷ブリッジセンターでの最終授業（1日）開催、教材コピー、発送など事務業務、受講学生へのJCBL会報配付支援を行った。

結果： 単位取得者56名

- 早稲田大学ブリッジ講座（10年目）

講座概要： 前期・後期 各15回

実施場所： 早稲田大学

講師： 並木亮

支援内容： 講師及びアシスタント4名の派遣、交通費、会場費、用具その他授業経費支援を行った。

結果： 単位取得者54名

- 青山学院大学ブリッジ講座（7年目）

講座概要： 前期・後期 各15回

実施場所： 青山学院大学

講師： 島村京子
 支援内容： 講師及びアシスタント 6名の派遣、交通費、教材コピー、発送、用具その他授業経費支援を行った。
 結果： 単位取得者 98名

• 明治大学ブリッジ講座（5年目）

講座概要： 前期・後期 各 14回
 実施場所： 明治大学
 講師： 清水映樹
 支援内容： 講師及びアシスタント 4名の派遣、交通費、教材コピー、発送、用具その他授業経費支援を行った。
 結果： 単位取得者 64名

• 大阪大学ブリッジ講座（4年目）

講座概要： 前期 15回
 実施場所： 大阪大学
 講師： 大橋正幸
 支援内容： 講師及びアシスタント 4名の派遣、交通費、教材コピー、発送、用具その他授業経費支援を行った。
 結果： 単位取得者 22名

③ 学校・学生支援

• 学生クラブの活動支援（部員勧誘活動、クラブ立ち上げ、用具提供）

要請に基づき、大学・高校・中学ブリッジ部の立ち上げや新入部員獲得活動に対する支援やクラブ活動に必要な教材・用具等の提供を行った。

対象クラブ：7クラブ

• 学生クラブによる他大学や他サークルの友人・知人への PR 活動推進支援（費用支給）
 要請に基づき、他大学や他サークルの友人への PR 活動への支援を行った。

• 学生リーグ主催の学生選手権への参加費用助成

学生リーグ主催の学生選手権および学生合宿に今回初めて参加した学生の宿泊費・交通費の一部を助成した。

夏季学生選手権・合宿

開催日：2018年9月6日～9月11日

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

参加人数：63名（うち受益対象者、19名）

春季学生選手権・合宿

開催日：2019年3月12日～3月17日

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

参加人数：55名（うち受益対象者、13名）

4. 広報（公益目的事業 2.4）

普及のターゲットごとに最適な広告メディアを選定して PR 活動やプロモーション活動を行った。

① 広報宣伝 PR 活動

- 2018年度に実施した媒体への広告掲出は以下のとおり。

	掲出媒体	回数
プロモーション広告	SKYMARK 機内誌 2018 年 4 月号	1 回
イベント告知広告	サンケイリビング新聞社主催イベントブース協賛 10 月 27 日 アート&ライフマーケット in 吉祥寺 11 月 10 日 アート&ライフマーケット横浜	2 回

- センター主催体験教室・講習会告知広告
河北新報 5 月（宮城）15.2 万円
朝日新聞 9 月・3 月（東京・神奈川・千葉）：223.5 万円
読売新聞 2 月～3 月（関東）：129.6 万円
毎日新聞 9 月・3 月（関東）：12.4 万円
産経新聞 3 月（関東）：37.8 万円
西日本新聞 9 月・3 月（福岡）：64.8 万円
 - その他の広報宣伝活動
プレスリリース配信：24 本
ブリッジ図書寄贈プロジェクト（和歌山）：5 箇所、8 冊
 - 「普及通信」ウェブ版を隔月更新した。
 - 20 代から 40 代の女性を主な対象とした社交型ブリッジの普及活動「light bridge」を支援した。
 - 20 代から 50 代の男性を主な対象としたゲーム愛好家向けのイベント「Table Cruise」の活動拡大を支援した。
 - ② プロモーション活動
 - ネットゲーム環境として BBO に開発した JCBL 専用ルームの利用者拡大を図り、HP を通じた誘導を行った。
 - ③ 出版物の刊行
 - ブリッジをテーマにした小説の制作、出版を目指して情報収集を行った。
 - ④ ウェブサイト運営
 - 助成に関する規定や説明をより見やすくする目的で HP の階層を検討した。2015 年 1 月に改訂した助成制度のさらなる定着を図った。
 - ⑤ 広報ツール、プロモーショングッズの作成・配布
 - 普及のための広報ツールやプロモーショングッズを適宜作成・配布した。
5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）
- 普及ネットの運営を行った。
 - ブリッジ・インストラクターの登録管理と登録証の発行を行った。

III. 国際交流事業（公益目的事業 3）

2018 年度も (1)国際競技会の主催、(2)海外競技会への参加支援、及び(3)国際的競技団体との交流の 3 事業を通じて、ブリッジの普及・発展への寄与に努めた。

1. 国際競技会的主催（公益目的事業 3.1）

2018 年度は国際競技会を開催せず、2020 年以降の APBF 競技会の日本開催を目標に資金を積み立てた。

2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）

① 日本代表選抜

- 2019 年度に代表を派遣する第 52 回 APBF 選手権の日本代表選抜試合を開催した。参加チーム数がオープン 1、ウィメン 3、ミックス 3、シニア 1 であったため、オープン及びシニアは選抜試合を行わず、ウィメンは 2018 年 11 月 10、11 日及び 17、18 日に、ミックスは 2018 年 12 月 22、23 日及び 2019 年 1 月 26、27 日にそれぞれ選抜試合を行った。遠隔地からの参加者には交通費と宿泊費を助成した。
- 代表チームの国内ナショナル競技会参加料及び練習会の費用を助成した。

② 国際競技会派遣

• 第 3 回アジアカップ

2018 年度は 6 月 4 日から 6 月 10 日の日程で、ゴア（インド）で第 3 回アジアカップが開催された。

代表者会議には吉田理事が APBF 幹事長として、寺本、山田理事が代表委員として出席した。

日本から以下の、オープン 1 チーム（全 14 チーム）、ウィメン 1 チーム（全 9 チーム）、スーパーミックス 1 チーム（全 6 チーム）、シニア 1 チーム（全 12 チーム）を派遣した。

オープン：古田一雄（PC）、赤間馨介、清水康裕、小池和人、田中陵華、原田智幸

ウィメン：角田喬（NPC）、星維子、高坂めぐみ、坂田恵美、塩田淑子、椿旬子、桜井雅子

スーパーミックス：大政哲人（PC）、森村俊介、今倉正史、島村京子、西田奈津子、伊藤美登利

シニア：山田和彦（PC）、阿部弘也、吉田正、井野正行、山田彰彦、大野京子
試合成績はオープン 10 位、ウィメン 7 位、スーパーミックスが 1 位、シニアが 5 位であった。メンバーには交通費、宿泊費の助成を行った。

• 第 18 回アジア競技大会

2018 年度は第 18 回アジア競技大会が 8 月 20 日から 9 月 3 日までの日程でジャカルタ（インドネシア）で開催された。

日本からはメン 1 チーム（全 14 チーム）、ミックス 1 チーム（全 8 チーム）が参加し、それぞれチーム戦及びペア戦に出場した。

メン：前田尚志（NPC）、加来浩、田中秀悟、田中陵華、寺本直志、古田一雄、横井大樹

ミックス：原田裕己（NPC）、上田哲也、上田真理子、勝部俊宏、勝部雅子、瀬下拓未、中尾共栄

試合成績はメンがチーム戦 7 位、ペア戦は入賞なし。ミックスがチーム戦 5 位、

ペア戦は中尾一瀬下が 11 位であった。

JOC が日本選手団の派遣を行い、連盟はメンバーの国内の交通費の助成を行った。

- その他国際試合派遣

”2018YEH BROS CUP”に参加した代表チームに対し交通費、宿泊費の助成を行った。

- ③ 国際競技会派遣（ユース）

2018 年度は以下の競技会への参加を支援した。

- 第 17 回世界ユースチーム選手権（中国 蘇州）：ヤングスター（U21）部門に代表チーム選手 6 名、主将 1 名を派遣した。22 チーム中の 21 位となった。
- 2018 世界大学生選手権（中国 徐州）：に代表チーム選手 6 名、主将 1 名を派遣した。10 チーム中の 6 位となった。

3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）

コントラクトブリッジを通じた国際交流を促進するため、2018 年度は以下の事業を実施した。

- ① 世界同時大会への参加

- 2018 年 4 月 24 日～6 月 2 日に開催された 2018 年世界同時大会開催に参加協力
 - 4 月 24 日（火）：4 クラブ、128 名参加（全世界：22 ヶ国、47 クラブ、1,448 名参加）
 - 4 月 26 日（木）：3 クラブ、116 名参加（全世界：22 ヶ国、44 クラブ、1,034 名参加）
 - 5 月 7 日（月）：3 クラブ、104 名参加（全世界：19 ヶ国、33 クラブ、998 名参加）
 - 5 月 9 日（水）：4 クラブ、74 名参加（全世界：19 ヶ国、36 クラブ、1,016 名参加）
 - 6 月 1 日（金）：16 クラブ、234 名参加（全世界：26 ヶ国、187 クラブ、7,072 名参加）
 - 6 月 2 日（土）：10 クラブ、196 名参加（全世界：22 ヶ国、135 クラブ、5,026 名参加）

- ② WBF ユース支援同時大会への参加

- 2018 年 8 月 13 日～12 月 12 日に開催された 2018 年 WBF ユース支援同時大会に参加協力
 - 8 月 13 日（月）：4 クラブ、118 名参加（全世界：5 ヶ国、314 名参加）
 - 8 月 15 日（水）：1 クラブ、58 名参加（全世界：9 ヶ国、414 名参加）
 - 10 月 15 日（月）：7 クラブ、210 名参加（全世界：4 ヶ国、360 名参加）
 - 10 月 17 日（水）：3 クラブ、124 名参加（全世界：5 ヶ国、318 名参加）
 - 12 月 10 日（月）：6 クラブ、188 名参加（全世界：8 ヶ国、456 名参加）
 - 12 月 12 日（水）：3 クラブ、70 名参加（全世界：5 ヶ国、306 名参加）

- ③ 海外競技会に参加する会員の支援と海外への情報提供と収集

- ACBL との提携の継続・強化：ACBL 競技会の開催状況の提供
- APBF 加盟国競技会の開催情報の提供
- WBF 加盟国の競技会開催情報の提供

- ④ JCBL ウェブサイトの活用

連盟サイトを通して海外に情報を提供するとともに、ブリッジ関連サイトから情報を収集し、会員・会友に提供した。

4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）

- 国際交流事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出した。

IV. 収益事業等

1. 公認（収益事業等 1）

収益事業等 1.1 競技会の公認

① クラブ・センター主催競技会の公認

- 当連盟が公認するブリッジセンター及びブリッジクラブが主催する競技会（ナショナル、リジョナル、セクショナル、ローカル、CCG、IMP リーグ、ウィークリーゲーム）を公認した。

レイティング	競技会数	2018年度 卓数	2017年度 卓数
ナショナル	22	218.5	224.5
リジョナル	49	1,452.25	1,538.0
セクショナル	2,497	37,722.5	38,364.5
ローカル	137	551.75	550.5
CCG	1,308	11,432.25	11,196.75
IMP	600	3,035.0	3,184.0
合計	4,613	54,412.25	55,058.25

② マスターポイントの認定・管理

- マスターポイントの集計・発行及びマスター位の認定を行った。

マスターポイント証発行枚数：67,019 枚

2018年度認定したマスター位の人数は以下の通り

ダイヤモンドライフマスター：	3名
ゴールドライフマスター：	11名
シルバーライフマスター：	47名
シニアライフマスター：	106名
ライフマスター：	141名
シニアマスター：	123名
ナショナルマスター：	157名
マスター：	164名
ジュニアマスター：	249名

収益事業等 1.2 ブリッジクラブの公認と育成

① ブリッジクラブの公認と育成

- 浜松リジョナルにあわせて地方クラブ会議を開催し、地方クラブの意見やニーズの把握に努めた。また、会議に出席する地方クラブ代表に対する参加費用の支援を行った。
- 「常設会場運営のためのサービス・ガイドライン」の運用、「ゲーム環境に係わるサービス向上のための意見書」対応、「緊急連絡システム」の運営、AED 設置支援、バリアフリー工事助成を行った。

② 競技会開催支援

地方リジョナル 5 競技会にディレクター派遣費用の助成を行った。

2. 商品販売（収益事業等 2）

コントラクトブリッジに関する書籍、競技用具等の仕入れと販売を行った。

V. 法人・管理部門

1. 会員・会友

① 入退会の状況

会員／会友数(2019年3月31日現在)

会員資格	2019/3月	2018/3月	増減
正会員	58	61	△3
シニア正会員	88	90	△2
終身会員	81	82	△1
特別会員	11	11	0
名誉会員	2	2	0
小計	240	246	△6
A会友	2691	2,907	△216
B会友	3609	3,431	+178
地方会友	914	924	△10
ジュニア	38	43	△5
終身会友	87	85	+2
小計	7339	7,390	△51
総計	7579	7,636	△57
クラブ	98	102	△4

② 会員・会友向け刊行物の発行

- 会員・会友向けの以下の刊行物を編集・発行した。

『JCBL BULLETIN』（会報）隔月刊年6回奇数月1日に発行

部数：7,700部（1～4号）、7,600部（5～6号）

『JCBL HANDBOOK』

毎年5月1日発行、部数：7,900部

③ JCBL ライブラリーの運営

- 通常の新刊書に加え、欠落していた図書の追加購入を行った。

④ キャンペーン

- 会員・会友向けに「紹介キャンペーン」を実施した。

実施内容：新入会者及び紹介者に QUO カードを進呈

実施期間：2018年度入会対象（2018年4月1日～4月30日）

2019年度入会対象（2019年1月1日～3月31日）

- 一般向けに「新入会キャンペーン」を実施した。

実施内容：新入会者は会費1年間無料

実施期間：2018年度無料対象（2018年4月1日～2018年12月31日）

2018年度および2019年度無料対象（2019年1月1日～3月31日）

2. 理事会・会員総会

(1) 理事会

開催日／出席等	議事事項	会議の結果
第47回理事会 4月27日 出席7名 欠席5名 監事出席2名	1. 第46回理事会議事録案の承認について 2. 次期役員立候補について 3. 2017年度事業報告書および決算報告書について 4. 理事による利益相反取引の承認について 5. 第7回会員総会の招集について 6. 各委員会及び事業部報告	可決 承認 会員総会への付議を決議 承認 承認 了承及び承認
第48回理事会 5月26日 出席13名 欠席0名 監事出席2名	1. 役員の内選について 2. 第47回理事会議事録案の承認について 3. 競技委員選任について 4. 第18回アジア競技大会ミクストチーム代表および代表強化について	選任 可決 承認 承認
第49回理事会 6月22日 出席9名 欠席4名 監事出席2名	1. 第48回理事会議事録案の承認について 2. 各委員会委員の承認について 3. 各委員会及び事業部報告	可決 承認 了承及び承認
第50回理事会 10月27日 出席11名 欠席2名 監事出席2名	1. 第49回理事会議事録案の承認について 2. 各委員会及び事業部報告	可決 了承及び承認
第51回理事会 10月26日 出席12名 欠席1名 監事出席2名	1. 第50回理事会議事録案の承認について 2. 職員（会員）の逝去について 3. 各委員会及び事業部報告	可決 了承 了承及び承認
第52回理事会 12月21日 出席11名 欠席2名 監事出席1名	1. 第51回理事会議事録案の承認について 2. 会員の逝去について 3. 2019年度予算案および事業計画について 4. 各委員会及び事業部報告	可決 了承 継続審議 了承及び承認
第53回理事会 1月25日 出席10名 欠席3名 監事出席1名	1. 第52回理事会議事録案の承認について 2. 会員の逝去について 3. 2019年度予算案及び事業計画について 4. 各委員会及び事業部報告	可決 了承 継続審議 了承及び承認
第54回理事会 3月22日 出席10名 欠席3名 監事出席2名	1. 第53回理事会議事録の承認について 2. 2019年度予算案及び事業計画について 3. 各委員会及び事業部報告	可決 承認 了承及び承認

(2) 総会

開催日／出席等	議事事項	会議の結果
第7回会員総会 5月26日 総会構成員247名 出席129名 (委任状103名)	1. 2017年度の公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟事業報告、貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録について 2. 2018年度の事業計画並びに予算案の報告について 3. 理事選任について 4. 監事選任について	承認 了承 選任 選任

3. 組織運営

① 事業運営体制

- 2019年度予算案の審議のために、2018年12月7日に業務執行理事による業務執行会議を企画委員会と合同で開催した。各事業部から提出された予算案をまとめた予算案原案が提出され、この原案をもとに12月、1月開催の理事会および2月開催の企画委員会において予算案を検討した。3月13日に開催した企画委員会において2019年度予算案および事業計画をまとめ、3月開催の理事会において承認した。
- 来年度以降も各事業部が予算編成を行い、それをまとめた時点で業務執行会議を開催し、各事業部の予算について拡大、縮小の審議を行う。その後の理事会および企画委員会で予算案について検討を行い、3月開催の理事会で最終案を承認する手順を踏む。
- いくつかの規則の制定及び改訂を行った。

② 事務局

- ほぼ隔週に事務局会議を開催し、事務局員の今後の予定、担当している業務の進捗状況などについて確認を行った。

4. 常設委員会・特別委員会

① 企画委員会

- 2018年6月22日開催の第49回理事会において委員長指名により選任した以下のメンバーで構成されている。

委員： 吉田正（委員長）、清水映樹（事務局長代行）

（委員長が指名する委員）ロバート・ゲラー、寺本直志、仲村篤志、西田奈津子、古田一雄、柳澤彰子

アドバイザー：宮内宏顧問弁護士

- 定例委員会を、2018年4月6日、7月11日、8月17日、9月12日、10月12日、11月14日、12月7日（業務執行会議と合同開催）、2019年2月13日、3月13日の合計9回開催した。
- 本委員会では、以下の課題に取り組んだ。
 - 2019年度予算案審議・事業計画書作成
 - 2018年度事業報告書作成
 - ディレクターの評価や能力向上に関する検討（ディレクターWG）
 - 消費税引き上げへの対応の検討
 - JTOSの運用状況の確認および検討
 - その他、JCBLの運営全般に関わる事項

(1) 2019年度予算案の審議については、業務執行会議との合同会議により、予算全体の方針の審議、競技会事業部、普及事業部などの担当業務執行理事による予算方針の説明、および事業部間調整が行われ、円滑に編成が行われた。

また、2019年度事業計画書についても、滞りなく作成された。

- (2) 消費税引き上げへの対応については、連盟の収支予測、過去の引き上げ時に行った対応を踏まえて慎重に検討した。
- (3) JTOSについては現在の運用状況および課題の確認を行った上で、今後の長期安定性の確保をテーマとして検討した。

② センター協議委員会

- ブリッジセンターの代表者と定期的に意見交換を行う協議会として、以下のメンバーにより構成されている。

委員：山田和彦（委員長）、清水映樹（事務局長代行）、大政哲人（管理部長）、高野英樹（普及事業部長）、ロバート・ゲラー（競技会事業担当理事）、齋藤陽子、浅越ことみ（普及事業担当理事）

- 原則として、奇数月にブリッジセンターの代表者との協議を行い、偶数月にそれを受けて連盟側委員による検討を行い、必要に応じて各委員会および理事会への連絡や要請などを行っている。
- 今年度に関しては、2019年10月に予定されている消費税率の引き上げへの対応について状況確認や意見交換を行った。競技会や普及活動に関する情報の共有を行った。

③ 競技委員会

I. 競技会事業（競技会運営環境の整備）参照

④ 代表選抜委員会

- 国際競技会の日本代表の選抜方法及び代表選手への助成を検討する場として、以下のメンバーにより構成されている。

委員：橋本公二（委員長）、齋藤陽子、古川京司、高野英樹

- 今年度に関しては第18回アジア競技大会の代表選抜方法の決定及び代表助成規則の改訂を行った。

⑤ ルール委員会

I. 競技会事業（競技会運営環境の整備）参照

⑥ 人事委員会

- 定例委員会を2018年10月20日に開催し、清水映樹事務局長代行および大政哲人競技会事業部長の継続雇用条件について検討を行い、方針を決定した。また来年度事務局の構成について検討を行った。
- 定例委員会を2019年2月14日に開催し、2018年度の職員の評価、2019年度の職員の年俸支給額などについて検討を行い、来年度の職位を決定した。併せて来年度事務局の構成を検討し、代行が務めていた事務局長職、及び競技会事業部長職の後任を決定した。
- 事務局員に欠員が生じたため新規職員の募集を行った。